共同議長サマリー
第14回 ODA 評価ワークショップ
2016年11月23日、ベトナム

2016年11月23日にベトナムにおいて、日本国政府による第14回 ODA 評価ワークショップが開催された。なお、今次ワークショップは、アジア太平洋評価協会 (APEA)、ベトナム政府、国連、その他の国際的に活動をしている評価団体と共催した国際会議の一環として行われた。

1. 開会セッション

外務省大臣官房 ODA 評価室村岡敬一室長が開会の挨拶を行い、ワークショップ全参加者に対し感謝の意を示した。

2. 議題-1：共同学習と相互説明責任のための評価

議題-1 において、共同学習と相互説明責任のための評価について、村岡敬一 ODA 評価室長、健康と人口創造イニシアチブセンター (CCIHP) 副所長ブ・ソン・ハ博士、フィリピン国家経済開発庁モニタリング・評価局員、経済開発シニアスペシャリストのニッキ・アン・バミューデズ氏から発表が行われ、マレーシア首相府経済企画院上級アシスタントディレクター、レヌーカ・デヴィ・ロガラジャン氏がこれら発表に対するコメントを述べた。

3. 議題-2：評価システムと評価能力開発

議題-2 では、評価システムと評価能力開発について、国際大学客員教授/APEA 副会長湊直信氏、ベトナム計画投資省投資管理審査部次長ヌアン・タン・ホン氏、JICA ベトナム事務所シニアナショナルスタッフのトラン・マイ・アン氏から発表が行われ、国際協力機構評価部長西野恭子氏がこれら発表に対して、コメントを述べた。

4. 議題-3：エビデンスに基づく政策立案へ向けてのインパクト評価

議題-3 においてはエビデンスに基づく政策立案へ向けてのインパクト評価について、JICA タイ事務所ナショナルスタッフのタニタ・ニルタイ氏、東京大学鈴木綾准教授、タイ産業省産業振興局産業管理開発部サービスプロバイダー開発課長ラク・チャロエンシリ氏から発表が行われ、フィリピン・ディジマン大学ロメオ・サントス教授ならびに、インパクト評価に関する国際イニシアチブ (3ie) エグゼクティブディレクター、エマヌエル・ヘメネス氏がこの議論に関するコメントを述べた。

議論の主な論点は以下の通りであった。

- 1) 評価の役割の重要性を認識し、SDGs 達成に向けての評価能力開発が必要であること
- 2) 日本の評価システムの枠組み、及びセクターレベル、プロジェクトレベルの評価事例について
- 3) 合同評価が被援助国と援助国双方の学習(learning)と説明責任を促進すること
- 4) 法制度を含む様々な側面と、評価能力開発を促進する方法論について
- 5) 民間セクターにおける情報収集の方法、及びSDGsを測定するプロセスについて
- 6) エビデンスに基づく政策立案のための評価の重要性
- 7) タイにおける JICA の中小企業振興支援について
- 8) インパクト評価の活用を通じた中小企業における効果測定の取り組みについて

(了)